

現代に息づく ダダの冒険

柴橋伴夫

特別展記念講演会



柴橋伴夫（美術評論家・本展監修）

1947年北海道岩内に生まれる。1974年より詩と批評「熱月テルミドール」編集委員を経て、「21ACT」アートコラム担当、1993年「美術ペン」編集人となる。1979年文化核「ゆいまある」を代表菱川善夫、中森敏夫、齋藤芳広と結成。ゆいまある主催で、「南島幻視行 北村皆雄映像個展」「アイヌ舞踏曲コンサート」「いけばなと建築—その原空間」「大野一雄舞踏—石狩の鼻曲がり」などを企画した。

また、自ら道内美術の活性化を企図し、「ダダ展」「立体の地平展」「抽象の現在展」「日本画の現在展」「季の会」を開催。美術評論を軸に芸術家の評伝をライフワークにしている。

●現在：荒井記念美術館理事、北海道美術ペンクラブ同人、「美術ペン」編集人、文化塾「サッポロ・アートラボ」代表。

特別展 SEVEN DADA'S BABY 再考 7人のアヴァンギャルド
記念講演会

2024年 5月25日(土)

14:00—15:30

市立小樽美術館 1階研修室

要観覧料 一般600円・市内高齢、高校生300円・中学生以下無料

定員 100名様

お申込み (tel 0134-34-0035)

※聴講には観覧券をお求めください。

市立小樽美術館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号
TEL:0134-34-0035

SEVEN DADA'S BABY 再考 7人のアヴァンギャルド

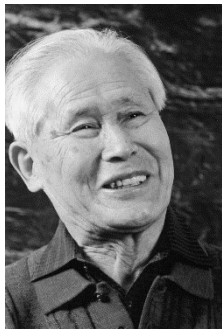
2024年5月11日(土)～6月30日(日)

開館時間/9:30～17:00 休館日/毎週月曜日

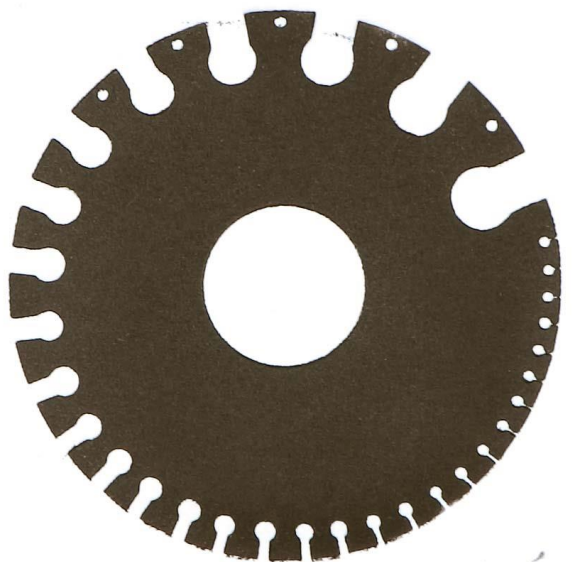
展覧会同時刊行 書籍の御案内

一原有徳

Arinori ICHIHARA



1960年神奈川県立近代美術館作品買上。東京画廊で個展開催。1962年東京国際版画ビエンナーレ招待出品。ニューヨーク近代美術館作品買上。1975・79年北海道秀作美術展優秀賞受賞。1981年北海道現代美術展北海道立近代美術館賞受賞。1990年北海道文化賞受賞。1996年地域文化功労者の文部大臣表彰。1998年一原有徳・版の世界展。2001年北海道功労賞受賞。2011年市立小樽美術館3階に一原有徳記念ホール開設。



【定価本体】 3,000円＋消費税

【取扱い】 市立小樽美術館協力会
ミュージアムショップ“小さな旅”

※本書の販売は、特別展「SEVEN DADA'S BABY 再考 7人のアヴァンギャルド」の会期中のみとさせていただきます。

2024年
5/25(土)
発売!

『アバンギャルドバード 一原有徳』

柴橋伴夫 著 (詩人・美術評論家)

藤田印刷エクセレントブックス

まえがき 自在航行した前衛 一原有徳
〈16のフラグメント〉

I 歩行の足跡

II 小樽地方貯金局と一原有徳

III 〈慧眼の人〉——土方定一

IV 俳句の魔神

V 哲学書との出会い

VI アルピニスト一原

VII 長谷川洋行「NDA画廊

「アヴァンギャルドバード」の実験

VIII 詩人木ノ内洋二の魔術

IX ダダの使徒

X 幻視家の相貌—小説空間

XI 『裸燈』の文学空間

XII 『FRAYS(6)』が語る(6)と

XIII 前衛の旗

XIV 螺旋の海あるいは廃墟の鏡

XV 不滅のバード

XVI 一原有徳年譜

あとがき 精神の〈熱版〉

一原有徳という男がいた。マルチな才能を謳歌した。私にとつては、最も敬愛する芸術家の一人であった。それ以上に、いつも私のつたない批評に耳をかたむけてくれ、ダダイズムを主体にした二つの私の企画展「SEVEN DADA'S BABY」「帰ってきたダダっ子」に無条件で参加してくれた。血はつながっていないが、「叔父」さんの存在だった。いや、ある時は、私を温かくつつみこんでくれた「父親的存在」でもあった。「叔父」さんは人が大好き、山が大好き、そして誰もやったことがないことが好きだった。

版画の世界では、「世界の「一原」とまでいわれるほどだったが、私はそんなことを一度もきにしたことはなかったし、一原はそんな意識をもっていなかった。いつも平然としていた。私は一原のことを「アヴァンギャルドバード」と呼んでいきたい。つまり「前衛鳥」だ。一原という「アヴァンギャルドバード」は、少年期から青年期において苦と貧の時を潜りぬけた。それは自分探しの疾風怒濤の旅でもあった。

(まえがきより)

お問い合わせ 市立小樽美術館協力会 (tel 0134-34-0035)